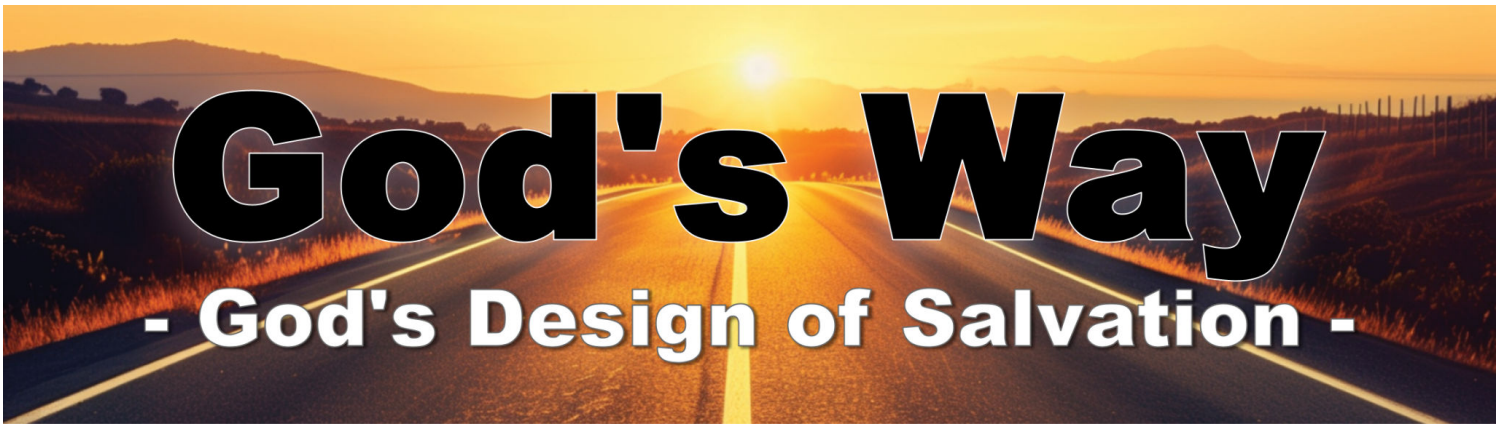


Week of May 17, 2026 - The Righteous Will Live by Faith　　Small Group Lesson 2

知り合う

これまである目標に向かってひたむきに努力していたにもかかわらず、ことごとく道が閉ざされてしまった経験はありますか。今振り返ってみると、神様がより大きな目的のために、その道を「あえて塞いでくださった」のだと感じることはありますか？その経験を通して、神様のタイミングを信頼することについて、どのような学びがありましたか？

聖句　ローマの信徒への手紙 1:8-17（聖書協会共同訳）

声に出して読んでください：

8 初めに、私は、イエス・キリストを通して、あなたがた一同について私の神に感謝します。あなたがたの信仰が世界中に語り伝えられているからです。 9 私が御子の福音を宣べ伝えながら心から仕えている神が証ししてくださることですが、私は、あなたがたのことを絶えず思い起こし、 10 祈るときにはいつも、神の御心によって、何とかいつかあなたがたのところに行く道が開かれるようにと願っています。 11 あなたがたに会いたいと切に望むのは、霊の賜物をあなたがたに幾らかでも分け与えて、力づけたいからです。 12 というよりも、あなたがたのところで、お互いに持っている信仰によって、共に励まし合いたいのです。 13 きょうだいたち、ぜひ知っておいてほしい。ほかの異邦人のところと同じく、あなたがたのところでも、何か実りを得たいと望んで、何度もそちらに行こうとしたのですが、今まで妨げられているのです。 14 私には、ギリシア人にも未開の人にも、知恵のある人にもない人にも、果たすべき責任があります。 15 それで、ローマにいるあなたがたにも、ぜひ福音を告げ知らせたいのです。 16 私は福音を恥としません。福音は、ユダヤ人をはじめ、ギリシア人にも、信じる者すべてに救いをもたらす神の力です。 17 神の義が、福音の内に、真実により信仰へと啓示されているからです。「正しい者は信仰によって生きる」と書いてあるとおりです。

簡潔に内容をもう一度確認してください。どのような励ましや挑戦、慰めなどを与えられますか？

学び

今日の聖書箇所に基づいて、次の質問を一緒に考えましょう。

1. 8節と12節によると、パウロはローマの信者たちに対してどのような態度をとっていますか？ 彼の訪問の具体的な目的は何ですか？またそれは、「知識を教えるだけ」の弟子訓練とはどのように対照的でしょうか？

2. 14〜15節で、パウロはすべての人に対して「果たすべき責任（負い目）」があると述べています。 文脈に基づくと、パウロに「委ねられた」何が、他者に対するこのような負債感（恩義）を彼に抱かせているのでしょうか？

3. 16節によると、救いをもたらす神の力は、具体的にどこ（何）に宿っていますか？また、それに対する人間の応答として、何が求められていますか？

4. 17節には「神の義が、真実により信仰へと啓示されている」とあります。 この聖句とメッセージに基づくと、私たちはどのようにしてこの義を得るのでしょうか？また、単なる「行動のチェックリスト」に従うのではなく、「信仰によって生きる」とはどういうことでしょうか？

分かち合い

話し合い　その１：

タケシ牧師は「パリサイ人と取税人」のたとえを用い、私たちは100%神様の憐れみに頼ることで義とされるのだと語られました。自分の行いによって自分を「優れた（あるいは劣った）クリスチャン」だと感じてしまうことはありますか？皆が等しく恵みに頼っているという真理は、今週、他者への接し方をどう変えますか？

話し合い　その2：

パウロは、命を救う『宝』を託された者として、福音を伝えることに深い責任を感じていました。信仰を分かち合うことを、単なる『宗教的な義務』としてではなく、イエス様への『愛の負債』を返すことであると捉えた時、あなたのモチベーション（動機）はどのように変わりますか？

具体的な祈りの課題を分かち合い、互いに仕え合いましょう。